日本学術会議　第26期
記者会見（令和7年9月26日）
資料

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和７年９月２６日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	10月4日(土) 13:30～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「科学におけるダイバーシティを考える～自分らしい進路・キャリアパス選択のために～」
2	10月5日(日) 13:00～17:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	学術フォーラム「米国科学技術政策の転換、その影響を考える」
3	10月8日(水) 17:00～18:30	ハイブリッド （大阪成蹊大学）	公開シンポジウム「生成AIの光と闇」
4	10月11日(土) 13:00～17:30	ハイブリッド （北海道教育大学函館校）	公開シンポジウム「縮小社会における地域の持続可能性」
5	10月20日(月) 12:50～17:30	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「AI導入による有機・高分子化学の10年先の将来展望」
6	10月22日(水) 14:40～16:00	国立京都国際会館	共同主催国際会議市民公開講座「口唇口蓋裂　見た目に悩むお子さんとご家族への生活の場におけるケア - ご家族・園・学校がチームとなって - 」
7	10月25日(土) 13:00～17:00	ハイブリッド （一橋大学）	公開シンポジウム「歴史教育シンポジウムー新課程での大学入学共通テストと歴史教育」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

日本学術会議一般公開イベント
（https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html）

● 公開シンポジウム ●

科学におけるダイバーシティを考える

～自分らしい進路・キャリアパス選択のために～

2025年10月4日（土）

13:30-16:00（オンライン）

対　象　高校生、予備校生、教師、保護者、大学研究教育関係者ほか、どなたでも参加いただけます。

定　員　500名

申込方法　QRコード、もしくは https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_bx0OefMQRoyzuShuZ0Hjmw からお申込みください

問合先　北海道大学大学院歯学研究院
血管生物分子病理学教室
樋田 京子
E-mail: khida(a)den.hokudai.ac.jp
※(a)を@にしてお送りください。

科学的思考は、生命科学や理工学のみならず、人文・社会科学を含むあらゆる学問分野に共通する普遍的な基盤である。近年、データサイエンスやデジタル・ヒューマニティーズなど分野横断型の融合領域が急速に拡大している。従来の「理系・文系」という枠組みを超えた多様な視点と経験による自由な発想が、次世代の革新的研究や技術開発の原動力である。しかしその一方で、「ジェンダー・ステレオタイプや無意識のバイアス」が進路選択やキャリア形成に影響を及ぼし、才能ある人材が十分に能力を発揮できない状況が深刻な課題となっている。

本シンポジウムは、こうした無意識のバイアスの実態と影響を多角的に捉えつつ、大学・研究機関・企業が推進するジェンダー・ダイバーシティ戦略やキャリア支援施策の最新動向を共有し、科学分野における包摂的で持続可能な研究・教育環境の構築を目指すものである。本シンポジウムが、参加者一人ひとりにとって「学問の多様性は個の多様性に支えられる」という気づきをもたらし、将来に向けた前向きなキャリア像を共に描く契機となることを期待する。

プログラム

座長　熊谷 日登美（第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会幹事）、東原 和成（第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会幹事）

13:30	**オープニングリマークス** 樋田 京子（日本学術会議 第二部会員／第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員長／科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会委員）
13:35	**挨拶** 矢野 理香（北海道大学 ダイバーシティ・インクルージョン(DEI)推進本部副本部長）
13:40	**科学の発展戦略としてのジェンダーダイバーシティ** 東村 博子（名古屋大学 名誉教授／大学院生命農学研究科特任教授／前副総長（多様性・男女共同参画担当））
14:05	**物理学博士からワイン研究家へ　～ダイバーシティ・ロールモデル～** 杉山 明日香（株式会社オー・トロワ・ソレイユ代表取締役／予備校講師）
14:30	**中高生の進路選択における意識改革を目指した取り組みの紹介** 北川 尚美（東北大学 大学院工学研究科研究科長補佐(DEI担当)／教授）
14:55	**なぜ日本の「トップ大学」は男だらけなのか** 矢口 祐人（東京大学 副学長／グローバル教育センター長／大学院総合文化研究科教授）
15:20	**総合討論** 座長：竹山 春子、樋田 京子
15:50	**クロージングリマークス** 竹山 春子（日本学術会議 第二部会員／第二部生命科学ジェンダーダイバーシティ分科会副委員長／科学者委員会ジェンダーエクイティ分科会委員）

【主催】　日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、日本学術会議科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会、日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
【共催】　北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所
【後援】　日本生命科学アカデミー，生物科学学会連合、日本農学アカデミー、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会

日本学術会議主催学術フォーラム

米国科学技術政策の転換、その影響を考える

令和７年 10/5(日) 13:00～17:00

米国の科学技術・学術政策は今年に入って大きく変動しています。環境政策、保健衛生政策の変更に伴い、米国海洋大気庁（NOAA）などでのデータ配信の停止や、米国衛生研究所（NIH）における研究の縮減、ファンディングの凍結が行われました。アメリカ航空宇宙局（NASA），米国国立科学財団（NSF）などでの基礎研究予算の大幅なカットが政府から提案され、議会において審議が行われています。人材育成支援や、海外の研究者の受け入れに消極的な方針が示され、研究者の米国外への移動が今後本格化するかもしれません。

このような米国の政策の変化は、なぜ起こり、我々はそこから何を学ぶことができるでしょうか。日本をはじめ世界の科学研究、さらに環境、安全にどのような変化が起こるでしょうか。本シンポジウムでは、米国の科学技術政策のこれまでを俯瞰した上で、日本と世界の科学技術・学術研究が受けるインパクトを洞察し、日本の研究が備えるべき視点を考察します。

ハイブリッド開催

会場 日本学術会議講堂
東京都港区六本木 7-22-34

×

Web リモートで

申 込 み https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0330.html
申込み締切 9月30日(火) 事前参加登録をお願いします

プログラム

演題・演者等	司　会 中村　征樹　（日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構・教授）
13:00 ～ 13:05	開会挨拶 西條　正明　（文部科学省科学技術・学術政策局長）
13:05 ～ 13:10	開会挨拶・趣旨説明 野尻美保子　（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授）
13:10 ～ 13:40	話題提供１：「トランプ政権下の米国の科学技術政策の動向」 遠藤　　悟　（元日本学術振興会職員）
13:40 ～ 14:10	話題提供２：「米国研究大学のこれまでと抱える課題」 阿曽沼明裕　（東京大学大学院教育学研究科・教授）
14:10 ～ 14:40	話題提供３：「日本と米国の科学技術政策の今後－第７期科学技術・イノベーション計画をめぐる議論から」 杉本　　舞　（日本学術会議連携会員／関西大学社会学部・教授）
14:40 ～ 15:10	話題提供４：「米国の科学技術政策の変容と人文学・社会科学」 福本江利子　（東京大学大学院総合文化研究科・講師）
15:10 ～ 15:25	休憩
15:25 ～ 16:55	パネルディスカッション 話題提供　科学研究の価値と社会 「米国における大型科学計画」 常田　佐久　（日本学術会議連携会員／千葉工業大学 天文学研究センター・所長） 「生態学・生物多様性科学」 北島　　薫　（日本学術会議第二部会員／京都大学大学院農学研究科・教授） 「地球環境観測」 谷本　浩志　（日本学術会議連携会員／国立環境研究所地球システム領域・領域長） 「感染症」 小柳　義夫　（日本学術会議連携会員／京都大学国際高等教育院・特定教授） コーディネーター 標葉　隆馬　（日本学術会議連携会員・若手アカデミー副代表／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科・准教授）
16:55 ～ 17:00	閉会挨拶 標葉　隆馬　（日本学術会議連携会員・若手アカデミー副代表／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科・准教授）
17:00	閉会

主催 日本学術会議　後援 生物科学学会連合、日本宗教研究諸学会連合、日本地球惑星科学連合、日本哲学系諸学会連合、科学技術社会論学会、日本天文学会、日本物理学会、日本学術振興会，国立研究開発法人科学技術振興機構、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、高エネルギー加速器研究機構、国立環境研究所、自然科学研究機構国立天文台

問い合わせ　日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当　TEL　03-3403-6295

公開シンポジウム

生成AIの光と闇

日　時：令和７年（2025年）10月8日（水）17：00～18：30

場　所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール（大阪市東淀川区相川1丁目3番7号）（ハイブリッド開催）

参加登録：左下のQRコードより登録をお願いします

開催趣旨：本シンポジウムでは、前回の「生成AI時代の人間力育成」における成果を継承しつつ、生成AIの利点（光）と懸念（闇）の両面を可視化という視点から掘り下げる。

総合司会：**水井　賢文**（株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部　主幹）

開会挨拶（10分）：**中村 佳正**（大阪成蹊大学 学長／教授）

趣旨説明（10分）：**小山田　耕二**（日本学術会議連携会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部 学部長／教授）

基調講演（40分）：「生成AIの光と闇：教育改革の可能性と限界」
　馬場 雪乃（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

パネル討論（30分）：
タイトル:「生成AIは教育の敵か味方か：可視化が導く教育の未来」
モデレーター：**筑本　知子**（日本学術会議連携会員、大阪大学レーザー科学研究所マトリクス共創推進センター センター長／教授）
閉会挨拶：**筑本　知子**（日本学術会議連携会員、大阪大学レーザー科学研究所マトリクス共創推進センター センター長／教授）

主催　日本学術会議　共催　大阪成蹊大学

経済地理学会 2025年度地域大会
日本学術会議公開シンポジウム

縮小社会における地域の持続可能性

消滅可能性自治体

北海道・東北地方が
37.9%
282自治体

函館市・青森市 他…

参考：人口戦略会議
『令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート』

2025 10/11 土

13:00-17:30

会場 北海道教育大学函館校
（北海道函館市八幡町1−2）1号館 第1講義室

函館バス
JR函館駅ターミナル「函館駅前」から
▶47系統で約20分／「教育大通」下車／徒歩約5分
▶82系統で約10分／「宮前町」下車／徒歩約10分

函館市電
「函館駅前」から約10分／「五稜郭公園前」下車／徒歩約15分

オンライン配信
本シンポジウムはウェビナー形式でのオンライン配信を予定しています。
オンライン配信のURLや注意事項は、10月第1週をめどに準備します。
シンポジウムの詳細やオンライン配信については、右の二次元コードを読み取り、経済地理学会Webサイトの「2025年度地域大会の情報」から確認してください。

主催 経済地理学会北東支部、日本学術会議地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会
共催 北海道教育大学　**後援** 東北地理学会、地理学連携機構

問い合わせ先 庄子 元（東北学院大学/北東支部代表幹事） genshoji(a)mail.tohoku-gakuin.ac.jp
【上記メールアドレスの(a)マークを@に変えてお送りください。】

縮小社会に向き合う

現在の日本社会は人口の減少と東京一極集中という構造的課題を抱えている。民間有識者による人口戦略会議が2024年4月に公表した『令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート』で、「消滅可能性自治体」と認定された全国744自治体のうち、37.9%（282自治体）が北海道・東北地方の自治体であった。その中には道南最大の都市である函館市や青森県の県庁所在地である青森市も含まれる。

本シンポジウム第1部は北海道、青森県で人口減少に起因する社会課題への対応に尽力している実務家による講演である。第2部では日本学術会議の会員、連携会員によって、学術的な視点から縮小社会の地域構想が提示される。

シンポジウムプログラム

13:00　開会挨拶　奥平 理（北海道教育大函館校 国際地域学科・准教授）

第1部　縮小社会の地域構想 実務家の視点から

司会：櫛引 素夫（青森大学 社会学部・教授）

13:10～13:35　大中 幸子（青森県 総合政策部DX推進課・課長）
【人口減少と地域】私たちは、どう生きるか

13:35～14:00　永澤 大樹（函館商工会議所・中小企業相談所長）
【地方都市の持続可能性を考える】函館を事例として

第2部　縮小社会の地域構想 学術の視点から

司会：田原 裕子（國學院大学 経済学部・教授）

14:10～14:35　小池 司朗（国立社会保障・人口問題研究所 人口構造研究部・部長）
【縮小社会の地域構想】人口減少と東京一極集中

14:35～15:00　中澤 高志（明治大学 経営学部・教授）
【縮小社会の地域構想】地域生活圏

15:00～15:25　近藤 章夫（法政大学 経済学部・教授）
【縮小社会の地域構想】産業立地と地域政策

15:25～15:50　片岡 博美（近畿大学 経済学部・教授）
石川 義孝（京都大学・名誉教授）
【縮小社会の地域構想】 多文化共生

16:05～17:30　総合討論

17:30　閉会挨拶　松原 宏（経済地理学会会長、福井県立大学 地域経済研究所・教授）

日本学術会議公開シンポジウム

AI導入による有機・高分子化学の10年先の将来展望

近年、あらゆる分野でAI利用への関心が急速に高まり、有機・高分子化学の分野も例外ではない。ビッグデータを活用したターゲット分子・材料の選定・設計、合成経路の探索、構造・物性の予測、プロセス管理の改善など、AIの応用範囲は広がり続けている。我が国が有機・高分子化学分野で世界をリードし続けるためには、AIの活用が必要不可欠と言える。こうした背景を踏まえ、有機・高分子化学分野におけるAIへの期待と近未来像を展望するため、合同で公開シンポジウム「AI導入による有機・高分子化学の10年先の将来展望」を開催する。本シンポジウムでは、アカデミアだけでなく産業界の研究者、政策関係者も登壇し、AI活用における課題や可能性について議論する。

日時　2025年10月20日（月）12:50~17:30
場所　日本学術会議講堂
定員　250名（先着順）　どなたでもご参加頂けます。
参加費　無料

参加登録（要）
はこちらから

趣旨説明（12:50〜13:00）　石原 一彰（名古屋大学）

第１部 講演（13:00〜14:30）
『AIが描く材料開発の新たな姿』
武田 征士（日本IBM株式会社東京基礎研究所）
『AIと化学者の“ひらめき”が共鳴する有機化学の未来』
大嶋 孝志（九州大学）
『有機化学はAI技術をどのように使えるのか』
松原 誠二郎（京都大学）

第２部 講演（14:40〜16:10）
『ポリマーオミクス：データ駆動型高分子材料研究におけるデータプラットフォーム構築戦略』
吉田 亮（情報・システム研究機構）
『データ駆動高分子材料開発と”材料＋Omics”』
内藤 昌信（物質・材料研究機構／筑波大学）
『ビッグデータ駆動によるバイオ高分子材料の開発』
沼田 圭司（京都大学）

第３部 講演（16:20〜16:50）
『研究におけるAI活用の期待：次期科学技術・イノベーション基本計画におけるAI for Science推進の方向性』
永澤 剛（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局）

第４部　総合討論（16:55〜17:25）
（パネリスト）　講演者＋（モデレーター）栗原 和枝（東北大学）

閉会挨拶（17:25〜17:30）　上垣外 正己（名古屋大学）

主催：日本学術会議化学委員会 有機化学分科会、高分子化学分科会
共催：文部科学省 データ創出・活用型マテリアル研究プロジェクト事業「バイオ・高分子ビッグデータ駆動による完全循環型バイオアダプティブ材料の創出」、学術変革領域研究（A）「デジタル化による高度精密有機合成の新展開（デジタル有機合成）」
後援：公益社団法人日本化学会、公益社団法人高分子学会
問合せ：bunkokagaku@gmail.com（名古屋大学教授・石原 一彰）

15th International
Congress on Cleft Lip/Palate
And Related Craniofacial
Anomalies

CLEFT2025

口唇口蓋裂

見た目に悩むお子さんと
ご家族への生活の場におけるケア

- ご家族・園・学校がチームとなって -

口唇口蓋裂の症状や治療
講演：彦坂　信（形成外科医師・成育医療研究センター）

あなたの笑顔、あなたのストーリー：口唇口蓋裂に関わるボディイメージと心理社会的側面の理解
Your smile, Your story: Understanding body image and psychosocial aspects concerning Cleft Lip and Palate
講演：マーティン・パーソン（心理学・Kristianstad大学）　**日本語翻訳あり**

顔を育てる：患児や家族の生活の場での心理社会的課題とチームとしての支援
講演：松本　学（公認心理師・東北大学病院形成外科・共愛学園前橋国際大学）

（講演後、質疑 10分）

市民公開講座

Open Lecture for Citizens

2025年
10月22日（水）
14:40－16:00（80分）受付開始：14:00-
国立京都国際会館　本館1階　Room D

開催形式	現地開催のみ　※WEB配信はございません。
対象者	市民のほか、患者・家族、心理職、教育・福祉・医療関係者、スポーツ少年団等児童生徒に関わる関係者
参加費	無料
定員	200名　※事前申込制（当日、空席がある場合は、直接会場にて受付いたします。）
参加申込	ご参加希望の方は、お申込みフォーム（https://forms.office.com/r/6QUktrMGZT） またはQRコードより、お早めにお申し込みください。【10月17日（金）正午締め切り】 ※定員になり次第、締め切りとなります。ホームページで随時ご案内いたします。

お申込みフォーム

口唇口蓋裂は日本では500人に1人の頻度で認められ、唇・鼻や口蓋（口の中の天井部分）に裂（割れ目）を認める先天性疾患です。見た目、言語、咬合（かみあわせ）などに多様な症状を生じるため、医師・歯科医師・言語聴覚士・心理師などがチームで治療にあたります。生まれてから成人に至るまで継続的な治療・支援をおこなうことで、患児は他児と同様な社会生活が可能になっています。一方で治療しても、顔の傷痕や変形が完全になくなることはありません。言語の問題が残ることもあります。このため、自尊感情や対人関係に関わる問題が生じる可能性があります。私たちの治療の目的は、この疾患をかかえたお子さんがいきいきと成長することです。このために、病院での治療はもちろんのこと、お子さんを支えるご家族、園や学校の先生方にこの病気とその影響を知っていただき、日常生活を一緒に支えていただくことが必要と考えています。こうした支援はまさに「チームとしての」支援です。ところが、こうした支援はこれまで十分にはなされてきませんでした。そこで、今回は家庭や園・学校などの生活の場における支援がどのように出来るのか、チーム医療に関わる公認心理師の立場から具体的なご提案ができればと考えています。
患者様やご家族はもちろんのこと、園や学校の先生方のご参加を心よりお待ち申し上げております。

座長　金子　剛（形成外科医師・国立成育医療研究センター）
杉山　千尋（言語聴覚士・大阪大学歯学部附属病院）

共同主催　日本学術会議、一般社団法人 日本口蓋裂学会
後援　京都府、京都市、日本医師会、日本歯科医師会

お問い合わせはこちら
E-mail：cleft2025@convention.co.jp
第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会　運営事務局
日本コンベンションサービス株式会社　関西支社

主催　日本歴史学協会　日本学術会議史学委員会
同　教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会
後援　高大連携歴史教育研究会

歴史教育シンポジウム

新課程での大学入学共通テストと歴史教育

2025年10月25日（土曜日）午後1時～5時　　参加費無料
ハイブリッド開催　対面会場：一橋大学（東キャンパス）東2号館 2201教室　事前申込不要

日本歴史学協会と日本学術会議史学委員会は、昨年まで8回にわたる歴史教育シンポジウムで、高校の歴史教育改革のために新学習指導要領で導入された「歴史総合」を多角的に検討してきた。今回のシンポジウムでは、新課程による初めての大学入学共通テスト実施を受け、大学教育との接続の視点から「歴史総合」「世界史探究」「日本史探究」の出題について検討するとともに、高校教育における共通テストの位置付けを考えてみたい。

プログラム

開会挨拶
若尾政希　人間文化研究機構理事　一橋大学大学名誉教授
日本歴史学協会委員長

司会進行
林　佳世子　東京外国語大学名誉教授　日本学術会議連携会員
平野千果子　武蔵大学特任教授　日本学術会議連携会員

学術会議報告
大橋幸泰　早稲田大学教授　日本学術会議会員

報告

兼子　歩 明治大学准教授
歴史総合と大学入学共通テストー変わったことと変わらなかったこと

佐藤雄基 立教大学教授
歴史学者からみた日本史探究と大学入学共通テスト

割田聖史 青山学院大学教授
大学における歴史教育と大学入学共通テスト（世界史探究）

大森淳子 栃木県教育委員会事務局高校教育課主幹
高校教育が目指すことから考える共通テストの役割について

コメント
穂積　暁　宮城県宮城第一高等学校教頭

総合討論

閉会挨拶
松本直子　岡山大学教授　日本学術会議会員

※参加ご希望の方は下記URL・左QRコードよりお申し込み下さい（〆切10月24日）。
https://keio-univ.zoom.us/meeting/register/TMVUB7PWT7aOFhu0QWr24w
※報告レジュメ等は、当日、チャット等で共有させていただきます。

※対面会場アクセス：下記URL・右URLコードで表示される地図31番の建物です。
https://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/index.html